

損保ジャパン日本興亜 環境財団ニュース

Vol. 8

2018年9月

発行者／公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL：03-3349-4614 FAX：03-3348-8140

URL：https://sjnkef.org/ BLOG：http://sjnkef.edoblog.net/ E-mail：office@sjnkef.org



Sompo Japan
Nipponkoa
Environment
Foundation

1. 2018年度「環境保全プロジェクト助成」の募集を開始しました

損保ジャパン日本興亜環境財団では、環境問題に取り組むNPO・NGO等の環境保全プロジェクトがより充実したものとなるよう、毎年、資金助成を実施しています。第16回目となる今年度の「環境保全プロジェクト助成」の概要は以下のとおりです。多くの団体からの応募をお待ちしています（一部昨年度と制度が変わっていますのでご注意ください）。

1. 対象プロジェクト

原則として、国内において「自然保護」「環境教育」「リサイクル」「気候変動対応」等の分野で実践的活動や啓発普及を行うもの
※2018年度中に開始される予定のもの（既に開始されているプロジェクトも可）。

2. 対象となる団体

公益法人、NPO法人もしくは任意団体として、環境保全活動の実績が2年以上（2018年12月末時点）あり、助成の対象となったプロジェクトの実施状況及び収支報告について適正に報告できること。

3. 助成金額

- ・助成金額は1プロジェクトにつき20万円を限度とします（合計10件・総額200万円程度を予定）
- ・助成対象となったプロジェクトに関するものであれば使途は問いません。

4. 応募締切日 2018年10月31日（当日消印有効）

◆応募方法・詳細は損保ジャパン日本興亜環境財団のホームページを参照ください <https://sjnkef.org/>

2. 環境保全プロジェクト助成先を取材

2017年度の助成先NPO「とうえい木の駅実行委員会」事務局長の谷川さんに会の活動の内容、助成金の使途などを伺いました。

●貴団体はどのような団体ですか？（活動地域の紹介、目指しているもの）

面積の約9割が森林の愛知県北設楽郡東栄町で、森林整備と地域経済の活性化を目的とした事業「木の駅プロジェクト」活動を2012年10月から行っています。放置材木の搬出者に森林整備の費用として、地域通貨券で払うという制度で、全国にも展開しています。放置材を実勢価格より高く買い入れることで、放置材の有効利用と、山仕事の復権を目指しています。また、東栄町内でしか使えない地域通貨券を発行することで、地域の活性化にも役立っています。

●現在どのような活動に取り組んでいますか？

この6年間で1000トン以上の丸太を搬出し、約450万円分の地域通貨券を発行しました。また、毎月1回、運営費ねん出のためのボランティア作業として「志～材*搬出会」を行っています。その他、都市部住民との交流イベントとして「東栄の森へ行こう」という、丸太の搬出や薪割りなど山の仕事を親子で体験できるイベントを毎年行っています。森林に親しみ、山の保全作業の大切さを知っていただく機会となっています。

※「志～材（し～ざい）」：当会ではボランティア活動をしていただく対象となる「寄付材」をこう呼んでいます。



放置材木搬出の様子



親子イベント「東栄の森へ行こう」

●当財団の助成金で取り組んだこと、どのような点で助成金が役に立ちましたか？

今回の助成金で山仕事用の安全防具を購入し、これにより会員が安全に作業をすることができ、怪我をすることもなく無事に活動に取り組んでいます。今後も仲間を増やし、森林整備と地域の活性化を推進していきたいと思っています。

谷川さん、ご報告ありがとうございました。これからも地域の活性化、山林保全活動がんばってください！

3. 市民のための環境公開講座パート2が始まります

当財団が、公益社団法人日本環境教育フォーラム、損害保険ジャパン日本興亜株式会社と協働で開催している「市民のための環境公開講座」のパート1「生きものの変化と気候変動を知る」(7/21、31、8/7)が大盛況のうちに終了しました。全3回の講演で延べ451人の方々にご参加いただきました。9月からは最近ニュースなどで報道されているごみ問題について「消費とごみの問題から環境を考える」と題して開催いたします。ぜひご参加ください。応募方法は以下のホームページを参照ください。

- 会場：損保ジャパン日本興亜本社ビル
- 時間：18:30～20:15
- 詳細：<https://sjnkef.org/course/course.html>



●●● 市民のための環境公開講座 講座一覧 ●●●

PART 2

消費とごみの問題から環境を考える

- 9月11日(火)
食品ロスはなぜ生まれるのか
株式会社office 3.11・ジャーナリスト・食品ロス問題専門家 井出留美氏
- 9月18日(火)
羽毛のリサイクルを通じた新価値創造
～100年以上再利用できる循環資源～
特定非営利活動法人 明日育 常務理事・事務局長
一般社団法人Green Down Project 理事長 長井一浩氏
- 9月25日(火)
石貨の島から見える日本と世界のゴミ問題
早稲田大学教授、特定非営利活動法人
エコプラス代表理事 高野孝子氏

PART 3

わたしたちの暮らしをシフトする

- 11月6日(火)
SDGsについて「知る」ことで、新しい暮らしをデザインする
～学校×SDGs から 地域×SDGsへ～
東京都立武蔵高等学校・附属中学校生物科教員 山藤旅間氏
- 11月20日(火)
持続可能な社会の実現
～イオンの挑戦～
イオン株式会社 グループ環境・社会貢献部 部長 金丸治子氏
- 12月4日(火)
市民工房＝ファブラボから始める解決モデル
～専門家にならないススメ～
ヒッピー テンダー(小崎悠太)氏

特別講座

- 10月13日(土) 「クリエイティブ・リユース ワークショップ」
有限会社イデア代表取締役・ミュージアムエデュケーションプランナー 大月ヒロ子氏
 - 12月12日(木) 「味噌玉保存食づくり」
味噌ソムリエ 吹留純子氏
- ※詳細は開催約1か月前までにWEBでご案内いたします。

4. 2018年度「学術研究助成」助成金交付先が決定しました

「学術研究助成」制度は、環境分野における博士号取得のための研究費用の助成を通じ、環境人材を育成する制度です。当財団では、外部有識者による選考委員会を開催し、応募者多数の中から助成対象研究者5名を選考しました(1名あたり30万円の助成)。

【2018年度助成先】

| 氏名 | 所属 | 研究テーマ |
|-------|----------------------------|---|
| 杉本 康太 | 京都大学大学院 経済学研究科 | 発送電分離政策の実証分析 |
| 杜 依濤 | 神戸大学大学院 経済学研究科 | 中国における固定価格買取制度が再生可能エネルギーの立地選択および電力の生産に与える影響に関する研究 |
| 小林 大輝 | 京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 | ケニアのカカメガ森林保護区の近隣住民により薪の調達と利用に関する研究 |
| 張 砵 | 京都大学大学院 経済学研究科 | 電力産業における気候政策ミックスのダイナミックな効率向上:技術革新の誘発の役割 |
| 阿部 達也 | 早稲田大学大学院 経済学研究科 | 東京都排出権取引制度の事後評価 |